

令和4年度 学校評価実施報告書

学校番号 定05 学校名 市川工業高等学校 課程名 定時制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	① 今年度も「0時限授業」を展開でき、1年生は3名の生徒が「日本語講座」に取り組んだ。また、2年生以上の生徒の中には自主的にレインボールームで学ぶ生徒もあり、学習効果は向上している。また、相談員と生徒のコミュニケーションもしっかりととれている。 ② ホームページでは昨年度同様「授業公開」「体験入学」の案内及び「令和5年度入学者選抜」について掲載するとともに、今年度は「スクールポリシー」についても写真とともに掲載し、学校の様子が伝わるよう取り組んだ。マチコミメールの発信回数は2回であった。 ③ 4月以降、県の働き方改革推進プランの目標値「1か月の時間外在校等時間について、45時間以内」を全教職員が達成している。また、教職員の働き方改革に関する意識調査においても肯定的回答が86.2%と85%以上で、昨年度を上回った。	① 今後も外国人生徒等教育相談員と連携及び情報共有を図りながら、外国人生徒の支援体制をしっかりと構築し、授業理解の促進につなげていく。 ② ホームページの更新については、保護者や中学生にも活動の様子が伝わるように内容を増やしていく。また、マチコミメールは緊急用とし、日頃の連絡等についてはTeamsを活用していく。 ③ 今後も、全教職員が働き方改革を意識しながら勤務を遂行し、県の目標値を達成していく。
学習指導	① 生徒の学力把握、学力向上に向けて効果的な少人数授業が実践できたか。 ② 生徒によるアンケートの結果、「授業を工夫している。」「授業内容はよく理解できる」について、肯定的回答はそれぞれ、94.2%、90.4%とともに85%以上で、昨年度を上回った。 ③ 保護者によるアンケートの結果、「授業を工夫している。」「授業内容をよく理解できている」について、肯定的回答はそれぞれ、89.7%、86.2%とともに85%以上で、昨年度を上回った。 ④ 1年生の観点別評価について、職員全体で集まる機会を設け、共通理解を図った。 ⑤ 各種資格の取得情報の提供及び資格取得のための指導を行った。また、実務代替の内容についてもしっかりと伝えることができた。	① 次年度も可能な限り効果的な少人数指導を実践していく。 ②③ 引き続き、基礎・基本からのわかりやすい学び直しによる基礎学力の徹底、及びICTの有効活用、丁寧な専門教科の指導により授業満足度を高くしていく。 また、授業公開等も積極的に行い、授業の様子を外部に発信していく。 ④ 評価方法等について検証及び意見交換の場を増やし、協働・共有に向け活性化させる。 ⑤ 今後も、各種講習や校外での学習、実務代替の活用等により生徒の進路実現の一端を担っていく。

生徒指導	① 生徒や保護者の面談週間を年４回設け、生徒・保護者の様子や実態把握に努めることができた。また、ホームルーム等において道徳に関する指導を適宜行い、いじめ発見のための取組も毎学期行った。 中途退学者は今年度１月末現在で、昨年度同時期より６名減少した。 ② 交通安全指導１回、薬物乱用防止教室１回、情報モラル教室２回、避難訓練１回、防災講話１回と生徒の実態に即した効果的な実施ができ、生徒の参加人数、取り組む姿勢もよかった。	①② 学校評価アンケートでは、いじめ防止、生活指導、相談体制について生徒・保護者とも肯定的回答が９０％を超えている。今後も、生徒の些細な行動を見逃さず、道徳及び情報モラル教育、安全教育等の充実を図りながら、未然防止及び早期発見・早期対応に向け、教職員間での情報共有及び組織的な対応力の強化に励んでいく。
キャリア教育	① 面談週間の活用や日頃の個人面談により、生徒の進路実現に向け、効果的な支援を行った。 ② 進路指導部と連携を図りながら担任等が積極的に専門学校や企業の担当者と連絡を取り、面談等を行いながら関係構築に努め、その情報を生徒に還元した。 進路決定率は１２月末現在 ３５．７％である。 ③ 相談員支援コーディネーターから高校卒業後に得られる在留資格についての情報を各担任に提供することができた。	①② 生徒自らが自分の将来像をしっかりと描けるように、進路指導部と担任が連携を図りながら生徒への情報提供を的確に行い、進路決定率の向上につなげていく。 ③ 外国籍生徒の進路については、今後も相談員支援コーディネーター等と連携を図りから丁寧かつ慎重に対応していく。
特色ある活動	① 今年度入学した外国籍の生徒について、概ね良好に単位を取得見込みである。 ② 学校間連携事業に参加する生徒は、今年度なしであった。 ③ 定時制通信制総合文化大会では、４名の作品が入賞した。また、春季及び秋季定通体育大会では、バスケットボール部が単独チームで、野球部とサッカー部は合同チームで、剣道部とバドミントン部は個人戦でそれぞれ参加した。	① 今年度成人入学生はいなかったが、引き続き多様な生徒に対して、生徒の不利にならないう個に応じた支援を続けていく。 ② 今後も学校間連携等による多角的な学びの機会を提供していく。 ③ 生徒数が減少し、かつ活動への意欲が低下している中、気持ちのある生徒に対しては、活動を評価し、粘り強く親身に指導しながら大会で結果が出せるよう支援していく。

(第3号様式-2)

自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策の公表について、時期や公表方法を明確に記入する。	アンケート結果及び過去2年との比較分析については、本校定時制ホームページで公表。また、自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策についても第3回開かれた学校づくり委員会が出た意見や次年度の課題をもとにまとめ、3月中にアップし、保護者及び地域住民に広く公表する。
--	---

※アンケート結果を集計して公表することで、学校評価の結果を公表したとみなすことは適当ではない。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	① 今後も粘り強い指導を期待する。 ② 今後は情報発信だけでなく応答性のあるホームページ運営も考える必要がある。 ③ 生徒のためにもまずは、教職員が元気でいることが何より大切。心身共に健康であることが教育の基になる。	① 1学年で行われる「0時限授業」においては、2学年以上の生徒でも自主的に日本語を学ぼうとする生徒や日本語の理解が不十分な生徒に対して積極的に指導にあたっていく。 ② プライバシーに配慮しながら学校生活の様子なども可能な限り紹介する。 また応答性のあるウェブページの構築に努める。 ③ 今後も職員の健康に留意し、働きやすい職場環境作りに努める。
学習指導	① 生徒のアンケート結果を見ても効果的な少人数授業ができています。 ②③ 授業理解に関するアンケート結果で生徒と職員とでは数値に開きがある。生徒にとってどこまでが基礎基本として定着させなくてはいけないものなのか今一度整理する必要があると思う。 工業高校の特性をいかし、社会との接点（現実社会のニーズに合う）を意識した学び、生きた学びをお願いしたい。 ④ 小中学校に一人一台タブレット端末が配備されている中、高校の環境整備が追い付いていない状況が気になる。学習意欲が向上できるような学びとなるよう今後も検討してほしい。 ⑤ 引き続き生徒の卒業後の進路を考え、資格取得のための指導をお願いしたい。	① 次年度も可能な限り少人数授業を実施し、一人ひとりの生徒に寄り添った学習指導を行う。 ②③ 各教科で、真につけさせたい基礎・基本をもう一度整理し、現実社会との差が少しでも埋まるようアンテナを高くし、その情報を職員間で共有することで、生徒にとって効果的な学びの実践に向けた授業改善を目指す。 ④ 授業でのタブレット端末の積極的な活用に向けて授業研究や職員研修を行い、教員のICT活用技術の向上に努める。 ⑤ 次年度もできるだけ生徒に体験する場を設け、資格取得にむけた意識の向上を後押しする。

生徒指導	①② 短時間（夜間授業）のため、生徒同士の交わりが見えにくいと思われるが、今後もしっかり見ていくことが大切である。	① 面談週間だけでなく、日頃の担任の粘り強い指導やいじめ調査の実施など生徒が安心・安全に学校生活を送ることができるようになった。次年度以降も、生徒各々が活躍できる場を設けるとともに、きめ細やかな指導を実践していく。 ② 生徒の実態に即し、生徒にとって有益な情報となるよう効果的な安全教育を展開していく。
キャリア教育	①② 本来は親が主導的に交わる必要もありながら、大人へステップアップしている生徒にとって、教員の指導・助言は最重要である。 ③ これからも増加するであろう大切な労働者としての育成につて、親身になって指導してほしい。	① 生徒の進路実現に向け、職員全体として共通認識を持ち、系統的な進路指導ができるよう指導体制の構築を図る。 ② 1, 2年生のうちから進路について考えさせる場を持たせるために、進路に関する情報を蓄積し、その情報を提供していく体制を整える。 ③ 外国ルーツの生徒の就労について職員研修を行うなどし、職員の正確な理解のもと進路指導にあたっていく。
特色ある活動	①②③ 中学校生活がうまくいかない子が専門性や技術を学び、自分の力に目覚め、自立への一歩を踏み出せる機会が与えられるように応援している。	① 次年度も多様な生徒の受け入れを進めそれらの生徒に対し、個に応じた支援を進めていく。 ② 今後も学校間連携等による多角的な学びの機会を提供していく。 ③ 生徒が主体的に活動できる場を可能な限り提供し、その結果一人でも多くの生徒が活躍し、輝けるようにする。